

## 平成25年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立あきる野学園 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長、副校長1名 主幹(教務主任兼務)1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長3名、経営企画室長、主幹(教務主任兼務)、主幹(地域支援)、  
肢体不自由部門各学部主幹2名・学部主任2名、知的障害部門各学部主幹2名  
進路指導部主任、生活指導部主任、 計15名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)  
学識経験者(放送大学教授)、PTA会長、医療機関職員(療育支援センター課長)、近隣中学校長、  
近隣小学校長、近隣幼稚園長、社会就労センター管理者所長、生活支援機関  
隣接企業(富士通、横河電機)2名、あきる野市福祉部障がい者支援課長

計11名

## 2 平成25年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 平成25年5月29日(水) 内部委員13名、協議委員10名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員長の選出  
授業見学、昨年度の学校運営連絡協議会から学校の現状と課題、施設開放、公開講座等  
学校経営計画、意見交換
- 第2回 平成25年9月25日(水) 内部委員6名、協議委員9名  
授業見学  
研究活動、プロジェクトチーム報告  
協議委員から活動に対する質問や意見と今後に向けて協議
- 第3回 平成26年2月26日(水) 内部委員12名、協議委員10名  
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議  
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 平成25年5月30日(水) 内部委員6名、評価委員4名  
今年度学校評価の基本方針の確認  
今年度の学校評価の実施に向けた検討
- 第2回 平成25年9月25日(水) 内部委員5名、評価委員4名  
今年度の学校評価の観点の検討  
評価項目および評価方法の確認
- 第3回 平成25年12月12日(木)  
アンケート集計結果の分析と次年度に向けた考察 内部委員6名 評価委員3名
- 第4回 平成26年2月26日(水) 内部委員9名、評価委員4名  
アンケート集計結果の分析と考察に対する学校側の今後の方向性や取組みのまとめ  
協議会に向けての報告準備

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
- ・ 9月 教職員評価・各学部評価、保護者評価、関連諸機関 配布
  - ・ 10月 保護者、教職員、関連諸機関評価、児童・生徒評価285名対象 回収
  - ・ 11月 上旬 評価結果の分析
  - ・ 11月 中旬 評価内容の検討 課題解決の方針検討
  - ・ 11月 下旬 児童・生徒聴き取り評価
  - ・ 12月 評価委員会による まとめ
  - ・ 1月～3月にかけて 課題解決の具体的検討
- (3) 主な評価項目
- ①授業に関する評価
  - ②校内環境に関する評価
  - ③教職員に関する評価
  - ④地域支援に関する評価

#### (4) 評価結果の概要（学校評価の意見・提言内容＝評価委員からの報告

##### ＜保護者アンケートから＞ 1・2・3・4 段階平均「 」

- ・全体の良い評価が平均「3.5」と高い評価になっている。
- ・昨年度に比較し、評価が上がっている項目が多い。
- ・人権に関する評価が「3.5」と高い。
- ・昨年度、多かった呼名や教員の暴言についての記述が減った。
- ・引継ぎについては、平均値が下がっている。「3.3→3.2」  
自由記述では13項目あった。
- ・情報提供、広報に関する評価が他に比べ低い。「3.3」
- ・広報でホームページや写真を掲載した様子を伝えて欲しいという意見がある。
- ・自由記述欄を大きくしたこともあり、自由記述が増加している。
- ・課題の提示や要望も多いが、教育活動も評価する意見が大幅に増えている。
- ・自由記述では、専門性、連携、環境に関する記述が多い。

##### ＜教員アンケートから＞

- ・数値的データからは、各項目平均3以上と高い数値が出ている。
- ・めざす学校像は昨年度より数値が向上している。
- ・人権については「3.6」と重点目標として取り組んだ効果が見られる。
- ・教職員間の連携については「3.5」と高い数値が出ているものの、教育観など連帯感をもって進められているかという点は、自由記述からは一部難しさが伺える。
- ・防災・安全については「3.0」と授業での指導に比べて、意識の低さが見られる。
- ・教職員の健康に関する項目が「2.9」と低い。
- ・業務の精選を求める声は「0.1」ポイントアップしている。

##### ＜児童・生徒アンケート＞

- ・概ね良い評価結果となっている。
- ・回収率が低い学部がある。
- ・昨年度見られたいじめや体罰等に関する記述はない。
- ・聞き取り調査を今後実施する。

##### ＜関係諸機関アンケート＞

- ・概ね良い評価結果となっている。
- ・関係諸機関との連絡、生徒への対応、ホームページ更新に関する要望が出ている。

#### (5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- 人権尊重に関しては、教員の意識が高まり及び保護者の評価も高い。取り組みの成果が見られる。
- 引継ぎについては、今年度の取り組みを通じて、教員は、連携が図られていると感じており、一定の成果があったが、保護者にはその成果を感じられていない点がある。

##### 課題① 引継ぎの充実

指導の継続性は、児童・生徒にとっては重要な課題である。特に、卒業・入学等に係って学部が変わる際には、学部間の引継ぎは、特に重要である。今年度、「引継ぎ会の実施」「引継ぎシートの活用」「ケース会議の設定」など、指導の継続性に取り組んできた。このことが教員は、日常の指導に役立っていると感じている。一方、保護者には、引継ぎに対して課題を感じていることがわかる。

「保護者と教員の引継ぎ内容に対する意識の違い」や「引き継いだ内容の指導への反映」、「学部の教育内容の説明及び理解の不十分さ」などがあると考えられる。

現在実施している引継ぎにおいて、時間的な制限がある中、より効果的に引継ぎを行い指導に反映させていく必要がある。

##### 課題② 新しい学校体制における協働・支援態勢の構築（組織改編等による業務の精選）

平成26年度から肢体不自由教育部門に「学校介護職員」、知的障害教育部門に「教育支援員」が導入され、新しい職種の方々と協働及び支援を受けての教育活動を展開することになり、その協働・支援態勢を構築し、より良い教育の展開が求められている。また、導入に伴い、現状の組織体制では個々の負担が増加されることを懸念される。教員には、これらに対する不安があることがわかる。また、教員には、業務の効率化を図り、教材開発に取り組みたいという意識が強くなることわかる。新しい態勢になる平成26年度に向けてその対応を図る必要がある。

### 課題③ 専門性の向上への取り組み

保護者アンケートによると、専門性のある指導について、数値的には一定の評価を受けているが、自由記述には、指導方法等に関する要望が多く見られる。これは、一定の評価をしつつも、保護者のニーズとして「より高い専門性のある指導」があることの表れである。また、教員も研修や実践等と通じて、自らの専門性の向上を感じつつも、より高い専門性を身につけたいという要求があることもわかる。しかし、時間の確保の困難さや研修内容に対するニーズの多様化などがあり、その要求すべてに対応できてはいない。より専門性を高めるために研修の見直しを図るとともに自己研修の時間が確保できる環境を設定する必要がある。

### 課題④ 広報活動の充実

本校では、学校だより、ホームページ、学部便り等で、教育活動の広報を実施している。広報活動は、学校への理解を深める重要な活動である。この広報活動に対して、保護者の評価は、評価項目の中では高い物ではない。また、外部連携機関からもホームページについての要望が上がっている。学校への理解を深めるためにも、広報活動の充実を図る必要がある。

## (6) 具体的取り組み<実施計画及び内容>

### 課題①に対し

#### <方策>

- ・保護者と教員の引継ぎ内容に対する意識を共有する。  
引継ぎ内容の具体化及び焦点化、引き継いでほしい内容の具体例の記入
- ・引き継いだ内容を指導に反映させる。
- ・学部の教育について、保護者に理解を求めていく。  
(保護者への啓発→学部の特色や指導のねらいの説明 等)

#### <具体的提案>

- 引継会の設定  
3月及び4月（個別指導計画作成時、保護者面談前に設定）
- 引継会資料の作成（個別指導計画利用）
- 保護者面談の充実に向けた簡単な対応マニュアルの作成（別紙）
- ビジネスマナー・接遇研修会の実施（別紙）

### 課題②に対し

#### <方策>

- ・組織の改編及び各分掌の業務内容の見直し  
学校介護職員の業務の検討（校務業務の移行、学校介護職員及び外部専門家と学部の連携）  
各学部・分掌における業務の重複の有無、学部間の連携
- ・日常業務の見直し  
各種作成資料の必要性の確認及び精選（作成書類のリストアップ、活用の状況、全員作成必要性 等）
- ・会議の効率化  
資料の事前配布、掲示板の活用（学部ごとの掲示板作成） 等

#### <具体的な提案>

- 職員朝会時の学部ごとの掲示板や板書の活用による効率化。
- 教科領域部会の内容の見直しと精選。
- 宿泊行事の体系的な実施に向けて。
- 主任教諭会議等で出された案をもとに、主幹教諭会議で精査し具体的な検討を進める。
- 各種書類、書式の精選を行う。

### 課題③に対し

#### <方策>

- ・研修の内容の再検討及び実施  
学校として必要な研修、教員のニーズに応じた研修、自己研修とする研修  
研修の回数、内容、時期の再検討、時間の確保、他校及び外部研修会の活用

<具体的提案>

- 肢体不自由教育部門においては、外部専門家、自立活動教員との連携をより密に行い、姿勢の安定、教材の工夫など、学習を取り巻く支援を進めていき、児童・生徒の障害による学習の困難さを軽減する。  
→教材の工夫などがあった場合に、教材・教具交流会に展示し、全校で共有できるようにする。
- 肢体不自由教育部門においては、学校介護職員との協働による児童・生徒への指導、介護をより丁寧に行う。  
→学校介護職員への事前研修会を3月下旬に行う。  
→夏季休業中に、自立活動部主催の研修会を行い、児童・生徒の指導、介護の質の向上に資する。
- 知的障害教育部門においては、教育支援員との連携を行い、授業改善、ケース会による児童・生徒の支援など、総合的な専門性の向上に資する。  
→助言を受けたことのポイントなど簡易記録し、全校で共有できるようにする。

課題④に対し

<方策>

- ・現状の広報活動の有効活用  
ホームページの更新、掲示物の整備、ツイッターの活用、学校だより、学部便りの効率化、有効活用

<具体的提案>

- 進路便り、学校便りなどの毎月の更新・反映。
- 月1回はトップページの写真を変更する。(カレンダーのように)
- ホームページで校歌を聞けるような工夫をする。
- 校内の施設設備の紹介。
- 学部・学年の様子などを適時的に更新する。更新日を設定する。(年3～4回程度)
- 行事の様子、あきるのクラブ、夏祭りなどは掲載できるようにする。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価)

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
  - ・評価に上げられた項目に対し具体的な改善策などがアドバイスされ学校の現場で実施できた。
  - ・企業やその他で取り入れられている改善手段を具体的に聞くことができ本校に於いても活かす事ができた。  
(ホームページの利用)(評価の分析、迅速な対応)
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
  - ・人権意識などに対する認識にまだまだ甘さがある。  
(児童生徒が自分の意思を周囲に伝える力を在学中に習得することを期待する)  
(教職員が呼称だけでなく態度全般における接し方についての人権意識を持つ努力をする)
  - ・ホームページなど事業主に対するメッセージ性の高いページを追加する。
  - ・改善活動は、教育現場に限らず、どの業界においても永遠のテーマ、外部人材を積極的に活用することで改善の質もアップする。 外部人材を積極的に活用する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

上記にある「(5)評価結果の分析・考察(学校及び校長への意見・提言)」について、来年度の学校経営計画に反映させる。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数：6人（5名は無回答）

2月の第3回学校運営連絡協議会の後に郵送によるアンケート回答：協議委員11名中6名が回答

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
3	2	0	1	0	0	5

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 0人 企画調整会議 0回 0人

【成果】

8 その他

- ・協議会を設定する日程や時程が経済状況の厳しさから年々厳しくなっている。特に企業関係の協議委員会への参加が難しくなっている。

〈都教委に報告した際の添付ファイル〉

